

武漢事務所便り週間新聞記事報告 2011.4.2-2011.4.7 1号

2011年4月2日付け「荆楚ネット」により

武漢東湖桜祭り 夜桜の花見が更にロマンチック

4月1日、清明節休みに入る前に、武漢東湖桜園の桜が満開になり、2011年武漢東湖桜祭りの夜桜イベントは一層神秘的でロマンチックな雰囲気を作り出した。

好天が続き、全国各地から毎日何万人もの観光客が煌びやかな東湖の桜を見ようと春の行楽に出かけ、東湖桜園は賑わっている。昼間だけではなく、色とりどりのライトで飾られた夜桜は千人近くの観光客を魅了する。

東湖桜園職員の説明によると、今年は特別に植物を保護できる省エネのルミネックスを使用し、調和がとれる環境保全を前提として、桜木の下でメタルハイドライドランプと水中全カラーLEDライトを付け幻流の桜ライト等を増やし、中南地域における桜の絶景を創りだした。華やかに彩るイルミネーションは桜の姿を春の宵に浮き出たせ、神秘的な雰囲気を創りだし、観光客は桜と月の下でロマンチックな雰囲気を味わえる。

桜祭りの期間、開園時間は夜10時まで延長される。毎日、三脚を持つ数多くの撮影愛好家が桜を撮っている。美しい湖と山、ロマンチックな東湖の桜は観光客の足を止め、帰る時間すらも忘れさせるほど綺麗である。



武漢東湖桜園の夜

2011年4月2日付け「荊楚ネット」により

武漢富士康第二期工場が予定通りに竣工

昨日午前10時、富士康武漢科学技術パーク内の新しい工場の前で、武漢市袁善蠟常務副市長が「鍵の模型」を富士康グループの(ベテラン)陳副総経理に渡し、陳副総経理はその「鍵の模型」を慎重に受け取り、しっかりと握っていた。

その後、袁善蠟副市長、陳国台副総経理をはじめとする一行は、新工場のそばに6本の新緑の樹を記念植樹した。植樹式典会場には、「武漢に住み、武漢に発展」と書かれた巨大な看板が設置されている。

2007年4月2日、10億ドルを投資した富士康武漢科学技術パークの第一期工事が着工した。4年間の建設期間を経て、2011年4月1日、富士康が建設した25棟の工場と29棟の公営アパートの営業許可を武漢市が出した。

武漢市委員会常務委員、東湖ハイテク開発区共産党工人委員会賈耀斌書記は、これで武漢富士康第二期工場の建設が全て完成したことを発表し、稼働後、武漢富士康は全世界において、デスクトップパソコンとゲームの最大生産基地になり、2015年までに生産高を2000億元にする目標を実現すると話した。